

(1) 法学部のカリキュラム構成

学位プログラム「学士（法学）」の到達目標に即した学生の主体的学修を促進すべく、法学部専攻教育カリキュラムは大別して5つの分野（基礎法学、公法・社会法学、民刑事法学、国際関係法学、政治学）に分類される科目群を、学年進行に応じた系統的履修に向けて「積み上げ型」（入門科目、基盤科目、展開科目）に配置し、学生自身の興味や関心、そして将来の進路に沿って体系的・総合的に各授業を選択できる仕組みを提供している。

1年次は基幹教育に充てられる。法学部専攻教育科目は配置されていないものの、1年次前期に、基幹教育の一環として行われる文系ディシプリン科目の「法学入門」「政治学入門」を法学部教員が担当することにより、法学部1年生への導入教育をおこなっている。

2年次より、法学・政治学への導入を図るため少人数教育として開講される「入門科目」（法政基礎演習）を皮切りに、法学部専攻教育カリキュラムのコアをなす「基盤科目」（憲法Ⅰ・民法Ⅰ・刑法Ⅰ・政治学原論・政治学Ⅰ・政治史など）の履修も始まる。

2年次後学期以降は講義系の法学部専攻教育科目を中心とした履修となる。法学・政治学の基盤的専門知識の習得を目指す「基盤科目」の学修を軸に据えつつ、それを学生自身のニーズに即してより広い視野から、より高い専門性に向けて発展させる多彩な「展開科目」の履修に繋がっていく。学年進行に応じて、5つの分野を横断した系統的学修に取り組めば、法学・政治学の専門知識・技能に裏打ちされた問題分析能力・問題解決能力・構想力を着実に培うことができる。

法学部では少人数教育に力を入れており、2年次前期の法政基礎演習を承ける形で、3年次からは少人数の演習科目（必修科目・通年開講）や外書講読科目（基盤科目）が開講される。演習科目（ゼミナール）では、学生自身の関心に即したテーマで研究・発表を行い、議論を重ねていく中で、主体性をもって自ら問い、論理的に思考し、表現する力を養うとともに、研究成果をゼミ論文として提出させるところも多く、法学部教育の総決算的役割を果たしている。

別表1：専攻教育科目開講一覧（学部学生便覧9頁）

別表2：演習科目開講一覧（平成28年度版）

(2016学部学生便覧より抜粋)

専攻教育科目開講一覧

開講時期	開 講 科 目 (単 位 数)		
	入 門 科 目	基 盤 科 目	展 開 科 目
1年前期 (第1学期)	[法学入門(2)] [政治学入門(2)]		
1年後期 (第2学期)			
2年前期 (第3学期)	法政基礎演習(2) 【必修】	憲法Ⅰ(4) 民法Ⅰ(4) 刑法Ⅰ(4) 法文化学基礎(2) 法史学基礎(2) 政治学原論(2) 政治学史基礎(2) 政治学Ⅰ(2)	
2年後期 (第4学期)		憲法Ⅱ(4) 民法Ⅱ(4) 行政法Ⅰ(4) 刑法Ⅱ(4) 国際公法(4) 政治学Ⅱ(2) 政治史(4)	
3年前期 以降 (第5学期以降)		労働法(4) 民法Ⅲ(4) 民事訴訟法(4) 商法Ⅰ(4) 刑事訴訟法(4) 比較政治学(4) 外国法律書講読又は 外国政治書講読(2)	演習Ⅰ(4)【必修】 演習Ⅱ(4)【必修】 法理学(4) 法思想史(4) 日本法制史(4) 東洋法制史(4) 西洋法制史(4) ローマ法Ⅰ(2) ローマ法Ⅱ(2) 比較法(4) 英米法(4) ドイツ法(2) フランス法(2) アジア法(2) 中国法(4) 法社会学(4) 法情報学(2) 紛争管理論(4) 行政法Ⅱ(4) 行政学(4)
卒業必要 単位数	2単位	42単位	36単位(必修8単位を含む)

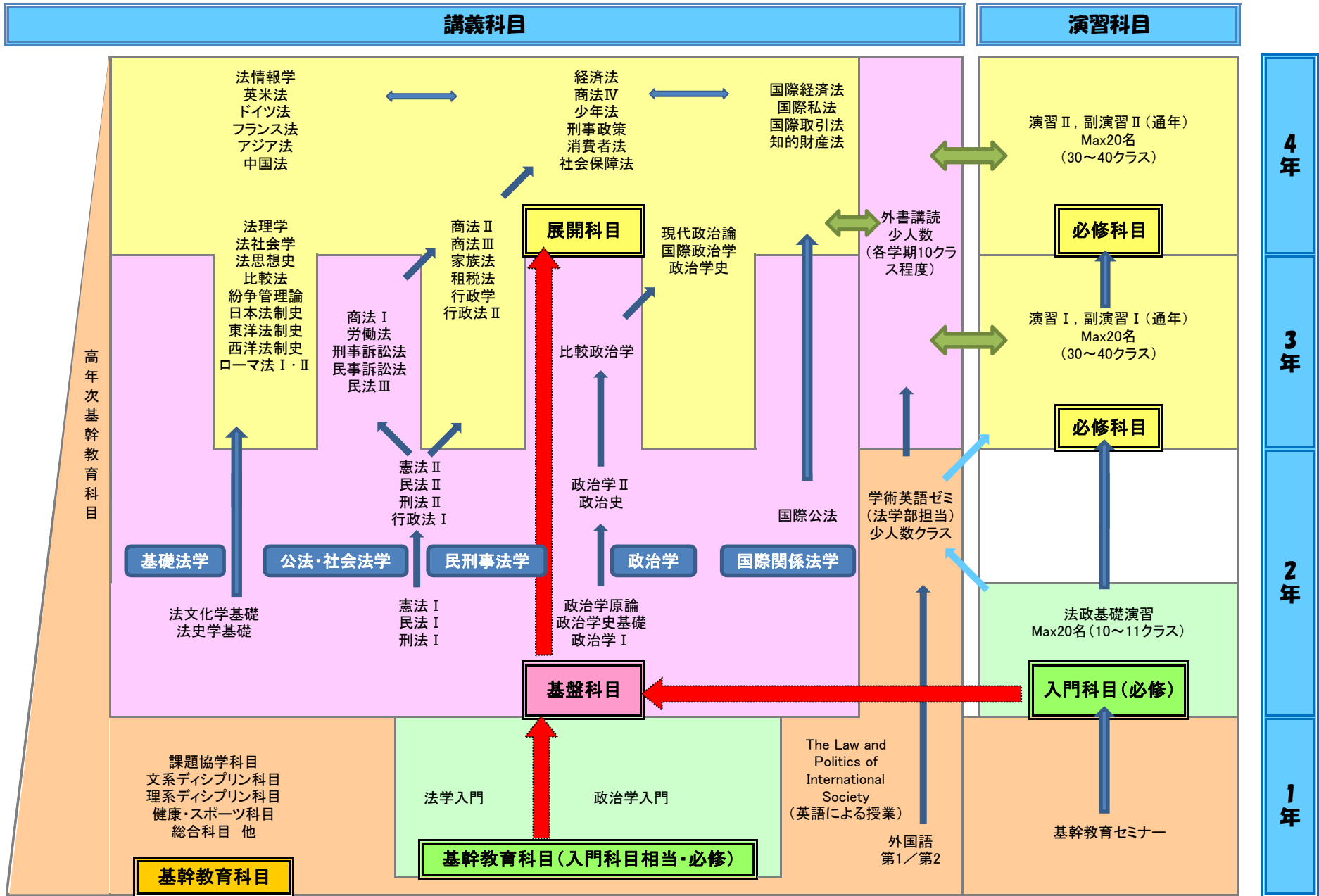
- ① 1年前期開講の法学入門・政治学入門は基幹教育科目(伊都地区開講・必修科目)です。
- ② 法政基礎演習は1クラス20人程度のゼミナール形式の授業で、10クラス程度が開講されます。
- ③ 特殊講義は展開科目です。
- ④ 基盤・展開科目の中には隔年開講のものが含まれます。また、上の表には含まれない科目が集中講義等で開講されることもあります。詳しくは、法学部HP→在学生(法学部生) ページ→時間割・シラバス等コーナーを確認してください。

法政基礎演習

講義題目	単位数	1週時間	標準学年	担当教員
憲法基本判例を読む	2	2	2	井上(武)
自治体政策法務の理論と実際	2	2	2	嶋田
最高裁判所民事判例の読み方	2	2	2	遠藤
民事法学習の基礎	2	2	2	荒
法律学の学び方	2	2	2	野澤
日本の司法を考える	2	2	2	豊崎
法学・政治学の前提を学ぶ	2	2	2	出水
リベラル・デモクラシーの源流を探る	2	2	2	木村
事例に学ぶ国際法入門	2	2	2	沖
思考する民事法・刑事法	2	2	2	堂前
ドイツ法思想史入門	2	2	2	城下
刑事責任の基本問題	2	2	2	徳永

演習名	授業科目	講義題目(演習題目)	担当教員	曜日・時限
演習Ⅰ・演習Ⅱ	法理学演習	法理学演習	酒 匂	金曜5限
	日本法制史演習	前近代日本における法的思考	和 仁	月曜5限
	西洋法制史演習	西洋法制史の諸問題	直 江	月曜5限
	法社会学演習	社会生活における法・倫理・モラル	江 口	火曜5限
	ローマ法演習	ローマ法史料研究	五十君	月曜5限
	中国法演習	中国人の行動原理と「法」	西	月曜5限
	紛争管理論演習	紛争管理論演習	入 江	木曜5限
	憲法演習	憲法学の世界	南 野	木曜5限
	憲法演習	最新憲法判例の分析	赤 坂	火曜5限
	憲法演習	憲法学の現代的課題	井上(武)	火曜5限
	行政法演習	最新重要行政判例を読む	村 上	火曜5限
	行政法演習	行政法判例研究	深 澤	木曜5限
	行政法演習	行政法の重要論点の研究	田中(孝)	月曜5限
	労働法演習	解雇と退職	山 下	木曜5限
	民法演習	新民法演習	五十川	火曜5限
	民法演習	民法の重要判例	赤 松	火曜5限
	民法演習	民法判例研究	七 戸	3年木曜／ 4年火曜
	民法演習	民法(債権関係)改正	田中(教)	月曜5限
	民法演習	民法基本書講読	香 山	金曜5限
	比較法演習	最高裁民事判例と外国法の比較研究	遠 藤	月曜5限
	商法演習	会社法の諸問題	笠 原	金曜5限
	知的財産法演習	知的財産法の現代的諸相	小 島	月曜5限
	民事訴訟法演習	判決手続の基礎	上田(竹)	水曜3限に開講
	刑法演習	刑法学の総合演習	井上(宜)	金曜5限
	刑法演習	刑法の諸問題	野 澤	木曜5限
	刑事訴訟法演習	刑事訴訟法の現代的課題	豊 崎	水曜3限に開講
	刑事政策演習	刑事政策の諸問題	土 井	木曜5限
	刑事政策演習	刑事政策の現在	武 内	火曜5限
	国際公法演習	現代国際法の諸問題	明 石	月曜5限
	国際私法演習	国際私法	河 野	火曜5限
	国際取引法演習	国際取引と交渉の理論と実務	松 井	火曜5限
	政治学演習	日本政治における現代政治の現状分析～憲法をめぐる政治	出 水	金曜5限
	政治学演習	Contemporary Political Theory	蓮 見	木曜5限
	政治学史演習	民主主義と公共性の観点から地方自治を考える	関 口	火曜5限
	政治学史演習	デモクラシーと教養の政治学	木 村	木曜5限
	行政学演習	公共政策と地方自治	嶋 田	木曜5限
政治史演習	立憲デモクラシーの危機の歴史	熊 野	金曜5限	
現代社会論演習	現代社会の諸問題	田 端	火曜5限	

(2) 学位プログラム 学士(法学)のカリキュラムマップ



(3) 学位プログラム 学士(法学)の学年進行と対応授業科目

		到達目標との関連	対応授業科目
1年次	前期	基幹教育科目の履修を通じて大学における学びの基本的知識を習得すると同時に、法学・政治学への導入教育として、専門領域の全体像の理解と、それに固有の方法論(テキストの読み方・資料の調べ方など)の基本を学ぶ。	①法学入門(基幹教育科目(入門科目相当)) ②政治学入門(基幹教育科目(入門科目相当)) ③基幹教育科目
	後期	基幹教育科目を通じて、習得した知識をもとに自ら問いを立て、考える力を養う。	①基幹教育科目
2年次	前期	高年次演習科目への橋渡しとして、2年生ゼミ(法政基礎演習)を通じてゼミ報告や議論のスキルを向上させる。また、法学・政治学的専門知識・技能のコアを構成する「基盤科目」のうち、すべての法学部生が履修することが望ましい基本科目やその後の法学・政治学履修の基礎になる科目を学ぶ。	①法政基礎演習(入門科目・必修) ②憲法Ⅰ ③民法Ⅰ ④刑法Ⅰ ⑤法文化学基礎 ⑥法史学基礎 ⑦政治学原論 ⑧政治学史基礎 ⑨政治学Ⅰ
	後期	引き続き「基盤科目」を中心に、より専門性の高い各論的科目群を系統的・分野横断的に学ぶ。また、専門英語への導入教育として、法学部スタッフによる英語科目を履修する。	①別表1掲載の「基盤科目」(憲法Ⅱ・民法Ⅱ・刑法Ⅱ・行政法Ⅰ・国際公法・政治学Ⅱ・政治史) ②学術英語ゼミ(法学部スタッフが担当)
3年次	前期	「基盤科目」とともに、より専門性の高い各論的科目群を系統的・分野横断的に学ぶとともに、より広い視野から、より高い専門性に向けて、法学・政治学的専門知識・技能の発展を目指す「展開科目」を選択的に履修することで、学生各自の問題関心やニーズ、そして卒業後の進路選択に即して学びの幅を広げていく。	①別表1掲載の「基盤科目」(労働法・民法Ⅲ・民事訴訟法・商法Ⅰ・刑事訴訟法・比較政治学・外国法律書講読・外国政治書講読) ②別表1掲載の「展開科目」(別表2に記載のない科目が集中講義等で開講される場合がある) ③別表2掲載の演習Ⅰ(通年開講・必修)
	後期	3年次前学期からは、法学部カリキュラムの要諦とも言うべき少数の高年次演習科目(必修科目・通年開講)の履修が始まる。個別専門分野に特化したゼミナールでの研究・発表・議論を通じて、専門的視点に立った高度な問題分析・問題解決・情報発信能力の修得に取り組む。	
4年次	前期	「基盤科目」の履修で獲得した法学・政治学の概念・方法を用いて現代社会の諸問題を的確に分析・説明する基盤的能力をふまえ、学生各自の問題関心やニーズ、そして卒業後の進路選択に即して「展開科目」を中心に学修を深め、法学・政治学に対する総合的知見と、個別専門分野における批判的・創造的な問題解決能力とをバランス良く兼ね備えた人間形成を図り、卒業後も継続するアクティブ・ラーナーとして土台を形成する。	①別表1掲載の「展開科目」(別表2に記載のない科目が集中講義等で開講される場合がある) ②別表2掲載の演習Ⅱ(必修科目・通年開講)
	後期	3年次から継続して履修する高年次演習科目(必修科目・通年開講)では、個別専門分野に特化した研究・発表・議論をつうじて、専門的視点に立った高度な問題分析・問題解決・情報発信能力を磨き、ゼミ論文をはじめとする研究成果のとりまとめを行い、高度の専門性に裏打ちされた指導力・対話力に富む有為な人材としての自己を確立する。	

(4) 学位プログラム学生(法学)の理念と育成すべき人材像

